



2026 年 露地シャインマスカット・クイーンルージュ®病害虫防除暦

JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
／	4 月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	【特別散布】 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	発芽前 45 日前	3 回	300	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。 ② クイーンルージュで晩腐病が多発した園は、ベンレート水和剤 200 倍 (休眠期、1 回) を加用する。
／	4 月下旬 (発芽直前)	① 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	休眠期	1 回	300	黒とう病 晩腐病	① 注意！デランフロアブルは葉焼け等の薬害が発生するため、発芽前に散布を完了する。
／	5 月初旬 カイガラムシ 特別対策	【樹幹塗布】 水	20 mℓ	幼果期まで	塗布 1 回	1 樹当り 20-40 mℓ	コナカイガラムシ類 (クビアカスカシバ)	塗布方法 ① 水：アルバリン＝1：1 で調合 ② 目安：直径 10 cm 以上の樹 20 mℓ、直径 20 cm 以上 40 mℓ ③ 主幹分岐部下 30～50 cm 程度、粗皮削りし塗布する。 コウモリガ対策 ① ガットサイド S の 1.5 倍 (幼虫喰入直前～喰入初期、2 回) を主幹部の地際から 30 c m の位置まで塗布する。
／	5 月上旬 (発芽直後)	② 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ					① 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。 ② モスピラン顆粒水溶剤に代えて、スミチオン水和剤 40 の 1,000 倍 (21 日前、2 回) を使用してもよい。
／	5 月中旬 展葉 3 枚頃	③ 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ					
／	5 月下旬 展葉 6 枚頃	④ 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ					① 今回防除から 10 日間隔の散布を目安とする。 ② ツマグロアオカスミカメ・カイガラムシ類対策： コルト顆粒水和剤 3,000 倍 (前日、3 回) を加用する。
／	6 月上旬 展葉 9 枚頃	⑤ 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	60 日前	3 回	300	べと病 晩腐病・黒とう病	
／	6 月上旬 展葉 9 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	満開予定日 14 日前～ 開花始期	1 回	300	無種子化	① 注意！有核巨峰には飛散しないようにする。 ② 散布遅れのないようにする。
／	6 月上旬 展葉 7～11 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	新梢展開葉 7～11 枚時 (開花始期まで)	2 回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容 (ラベル等) を確認する。 シャインマスカット・クイーンルージュ®:2,000 倍 弱樹勢樹や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
／	6 月中旬 開花直前	⑥ 展着剤 (ハイテンパワー)	10 mℓ	60 日前 30 日前 45 日前	3 回 3 回 3 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 主幹害虫対策：主幹・主枝等にも薬液が到達するようにする。 ② アザミウマ類対策：花穂 (軸部) に薬液が到達するようにする。
／	前回から 10 日後 (落花直後)	⑦ グレーシアフロアブル	25 mℓ	7 日前 30 日前 45 日前	2 回 2 回 2 回	400	べと病・晩腐病 灰色かび病 チャノキイロアザミウマ ブドウサビダニ (ミカンキイロアザミウマ) (コガネムシ類)	① 注意：ジマンダイセン水和剤・ゾーバックエニベル顆粒水和剤等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② サビ防止対策：花冠の飛び等を確認し散布する。 ③ 果紛溶脱防止：展着剤は今回から第 10 回まで使用しない。
／	満開 10 日後	【強樹勢特別散布】 登録品種：シャインマスカット・ ピオーネ・ナガノパープルのみ	200 mℓ	満開 10 日 ～20 日後、 但し 60 日前まで	2 回	150	新梢伸長抑制	① 登録品種：シャインマスカット・ピオーネ・ナガノパープルのみ (ナガノパープルは、収穫前日数 (60 日前) に注意する)。 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る恐れがあるため、散布を控える。
／	前回から 10 日後 (落花 10 日)	⑧ フェニックスフロアブル	25 mℓ	14 日前 3 日前 45 日前	2 回 3 回 2 回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・褐斑病 スカシバ類 カイガラムシ類 アザミウマ類	① 注意：ジマンダイセン水和剤・ゾーバックエニベル顆粒水和剤等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② 代替：ジマンダイセン水和剤に代えて、ホライズンドライフロアブル 2,500 倍 (21 日前、3 回) を使用してもよい。
／	前回から 10 日後 (落花 20 日)	⑨ レーバスフロアブル	50 mℓ	7 日前 30 日前 前日	3 回 3 回 2 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	① 黒とう病発生園は病斑を切除後カナメフロアブル 4,000 倍 (前日、3 回) を加用する。
／	前回から 10 日後 (落花 30 日)	⑩ ライメイフロアブル	25 mℓ	14 日前 前日 7 日前	3 回 3 回 5 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 チャノキイロアザミウマ コガネムシ類	① 袋かけ直前の散布とする。 ② クイーンルージュ®晩腐病・黒とう病強化対策：オンリーワンフロアブルに代えて、ミギワ 20 フロアブル 2,000 倍 (前日、3 回) を使用してもよい。
／	7 月下旬 (袋かけ直後)	⑪ 展着剤 (アビオン-E)	50 mℓ	前日 —	3 回 —	400	さび病・ (べと病) チャノキイロアザミウマ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コナカイガラムシ類	① ハダニ類 対策：コロマイト水和剤 2,000 倍 (7 日前、2 回) を加用する。 ② クビアカスカシバ対策：パダン SG 水溶剤 1,500 倍 (14 日前、2 回) を加用する。 ③ 園芸ボルドーを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。
／	8 月上旬 (前回から 10 日後)	⑫ 展着剤 (アビオン-E)	50 mℓ	— 14 日前	— 1 回	400	べと病・ (晩腐病 黒とう病・さび病) チャノキイロアザミウマ	① コガネムシ類対策：テルスター水和剤に代えて、イカズチ WDG の 1,500 倍 (21 日前、5 回) を使用する。ただし、早生種は収穫前規制に注意する。
／	8 月中旬 (前回から 10 日後)	⑬ 展着剤 (アビオン-E)	50 mℓ	—	—	400	べと病・ (晩腐病 黒とう病・さび病)	① IC ボルドー66D 代替 ムッシュボルドーDF の 500 倍又はクミガード SC の 1,000 倍又は園芸ボルドーの 500 倍を使用してもよい。ただし、変更する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。
／	8 月下旬 (前回から 10 日後)	⑭ 展着剤 (アビオン-E)	50 mℓ	—	—	400	べと病・ (晩腐病 黒とう病・さび病)	① IC ボルドー代替 ② 収穫中の園地に飛散しないように注意する。
／	9 月上旬 (除袋直前)	【特別散布】 展着剤 (アビオン-E)	50 mℓ	—	—	400	べと病・ (晩腐病 黒とう病・さび病)	

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例：展着剤 ⇒ 液剤⇒ 乳剤⇒ 顆粒水溶剤⇒ 水溶剤⇒ フロアブル⇒ ドライフロアブル (DF) ⇒ 顆粒水和剤 (WDG) ⇒ 水和剤